福井医療大学　出前講座

通年（2026年4月～2027年3月）

No.	施設区分	対象区分	講義テーマ	講師	内容・特色	キーワード	ZOOM
1	高校	学生 教職員	呼吸と健康	リハビリテーション学科 理学療法学専攻 教授 堀　秀昭	上手な呼吸法について講義し、実際の方法について教えます。また、呼吸の仕組みはどうなっているの？上手な呼吸法を理解しよう。肺が病気になるとどうなるの？	健康寿命、運動方法	可
2	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	安全でけがのない学校生活を送るには	リハビリテーション学科 理学療法学専攻 准教授 近藤　仁	成長期に起こりやすい代表的なけがの予兆や発生要因などを説明し、安心して体育および部活動を送るための知識や対応策を紹介します。	成長、運動・体育、 部活動、けが予防	不可
3	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	ケガを防止するために行う ストレッチング	リハビリテーション学科 理学療法学専攻 准教授 東　伸英	ケガの発生には、筋肉･関節の疲労や柔軟性の低下、筋力不足などといった様々な要因が関与しており、そのため筋力･柔軟性トレーニングが怪我のケアや予防に重要とされています。そこでストレッチングを中心に自宅で行える運動を紹介します。	スポーツ障がい ストレッチング	可
4	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	子どもロコモティブシンドローム	リハビリテーション学科 理学療法学専攻 助教 菅原慎弥	近年、児童・生徒において関節、筋力、バランスなどの運動器機能が低下し、転倒によるケガが増えてきている為、学校生活および部活動で生じやすいケガと身体機能の関係についてお話します。	筋力、柔軟性、 バランス、けが予防	可
5	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	体の使い方を知ろう	リハビリテーション学科 理学療法学専攻 助教 栗田　梨渚	運動が好きなお子さんも苦手で不器用なお子さんも自分の体の動きに気付き、より良い体の使い方ができるようになるためのアプローチについてお話しします。	運動、体育、図工、 不器用	可
6	中学校 高校	学生	医療者と話そう ～リハビリテーションの実践を通して～	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授　石田　圭二	リハビリテーションの実践では、対象者の方々が医療者と様々なことを話すことで、気持ちの整理や家族や社会との関係性、こうむってしまった障害などについて整理がつくことを多く経験します。また過去から現在を語ることで自分に対して考える機会になりそれが未来の自分への可能性を見つけることにもつながります。一方医療者側にも医療中心の視点から、対象者の立場に立った視点に変化し、対象者への未来へ向けた同行者としての立場が出来上がります。とかく日本人は遠慮して積極的に医療者と自分のことを話さない傾向があると思われますが、講義では事例を通して説明しながら対象者と医療者の交流の重要性についてお話しします。	リハビリテーション ナラティブ	可
7	中学校 高校	学生	障がいを乗り越える心理	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授　石田　圭二	けがや病気にかかった時、現在の医療では完治させることが困難で「障がい」が残存することが多くあります。リハビリテーションは「人間にふさわしい権利，資格の回復を回復させる」という意味を持ち、その一翼を担う作業療法の臨床場面では「障がい」を乗り越えようとする人の営みに出会うことになります。講座では学生さんの臨床実習記録や患者手記を読み解くことで、その力強い心の動きの理解を深めていきます。	日常生活活動、 動作指導	可
8	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	おじいちゃん、おばあちゃんを救おう ～　脳卒中　～	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授　林　浩嗣	脳卒中は、ある日、突然起こり、動けなくなったり、話せなくなったりする病気です。早く見つけて、病院に行けばなおります。おじいちゃん、おばあちゃんが、脳卒中になっているのかどうか、早くみつける方法、どうすればなおるか、どのようなリハビリをするかなどについて、わかりやすくお話しします。	日本安全学教育研究会、 いろいろな安全学、 平常時と緊急時の安全学、 安全文化	可
9	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	おじいちゃん、おばあちゃんを救おう ～　動脈硬化　～	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授　林　浩嗣	動脈硬化は、何十年もかけて、身体の血管が硬くなる病気です。動脈硬化がすすむと、頭、心臓、足の血管がつまり、いのちにかかわります。早く見つけて、病院に行けばなおります。おじいちゃん、おばあちゃんが、動脈硬化になっているのかどうか、早くみつける方法、どうすればなおるかについて、わかりやすくお話しします。	日本安全学教育研究会、 いろいろな安全学、 平常時と緊急時の安全学、 安全文化	可
10	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	おじいちゃん、おばあちゃんを救おう ～　認知症　～	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授　林　浩嗣	認知症は、年をとると、だんだん、日にちやしたことを思い出せなくなる病気です。早く見つけて、病院に行けば、ひどくならなくてすみます。おじいちゃん、おばあちゃんが、認知症になっているのかどうか、早くみつける方法、どうすればなおるか、などについて、わかりやすくお話しします。	日本安全学教育研究会、 いろいろな安全学、 平常時と緊急時の安全学、 安全文化	可
11	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	朝、おきられない、やるきがでない、 元気がない、きみへ。 食べ物をみなおしてみよう。	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授　林　浩嗣	毎日食べているものによって、朝、おきられない、やるきがでない、元気がなくなるなんて、信じられますか？毎日食べているものを調べてみると、あるものを食べてないから、あるいは、食べすぎているから、おきられない、やるきがでない、元気がでないのかもしれないと気づきます。どんな食べもので、変われるか、わかりやすくお話しします。	日本安全学教育研究会、 いろいろな安全学、 平常時と緊急時の安全学、 安全文化	可
12	中学校 高校	学生	高齢者の理解のために！ ～“からだ”と“こころ”の変化～	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授　堀　敦志	高齢化が進み「障がいを持った高齢者」が増えています。そのため、全て人が「高齢障がい者」の理解を深めることが必要です。 そこで、高齢者の特徴を「からだ」だけでなく、「こころ」からも理解を深め、認知症等の対応についても学んでいきましょう。	認知症	可
13	中学校 高校	学生 保護者	高齢者の自動車運転	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授　川端　香	高齢者による自動車運転事故に関する報道が大きく取り上げられます。 高齢者の交通事故が多い要因の一つに、加齢に伴う注意力や判断力の低下が挙げられます。 この講座では、自動車運転に必要な認知機能についてお話します。また、簡単な注意力のテストを実施しますので、自分の注意力を知る機会になれば良いと考えております。	高齢者、自動車運転、 注意力	可
14	中学校 高校	学生 保護者 教職員	早く気づこう、心の不調	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 講師　下川　幸蔵	ストレスフルな現代社会において、誰しも1度は「こころの不調を」感じたことがあるはずです。「こころの不調」は決して珍しくありません。そんな「こころの不調」に早く気づき、対処するコツをお話します。	ストレス、こころ、不調	可
15	未就学	保護者 教職員	子ども達の発達と遊び ～作業療法士の視点から～	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 講師　蓑輪　千帆	子ども達は、日々繰り返す遊びを通して様々な機能を発達させ、自分の体を理解し環境とうまく関わることができるようになっていきます。子ども達の遊びと発達の関係、うまく遊べない子どもの背景とその支援について、作業療法士の視点でお話します。	子ども、発達、支援、 遊び	可
16	中学校 高校	学生 保護者 教職員	脳卒中を知る！ メカニズムや症状、予防やリハビリテーション	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 講師　酒井　涼	脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）は脳の中で血管がつまったり破裂する病気です。半身まひや認知機能に障害を起こすことが多く、十分な予防が必要です。脳卒中とはどんな病気なのか、そして予防するにはどんなことに気を付けると良いのか、脳卒中に備えていくための知識をわかりやすくお話します。また、また、実際のリハビリテーションの様子や、最先端の科学・医療技術についてもご紹介します。この講座が、人体や病気への理解を深めるとともに、医療や科学への関心を広げるきっかけになれば幸いです。	脳卒中、リハビリテーション、生活習慣、予防、科学	可
17	小学校 中学校	学生	脳ってスゴイ！ ～暮らしを支える脳のはたらきとリハビリのひみつ～	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 講師　酒井　涼	脳は、私たちが考えたり体を動かしたりするための「体の司令塔」です。この講座では、脳がどのように情報を集め、体に命令を出しているのか、どんな働きをしているのかをわかりやすく紹介します。 子どもたちが興味を持ちやすいように、脳の模型やイラスト、映像などの視覚教材を使いながら、脳のしくみを楽しく学べる時間を目指します。また、身近な動きから脳の働きを実感できる体験コーナーを用意し、主体的に参加できる構成にしています。さらに、もし脳にけがや病気が起こるとどのような影響が出るのか、リハビリテーションで脳の力を取り戻す工夫についても紹介します。この講座が、医療や科学への関心を深めるきっかけになることを願っています。	人体の仕組み、病気、 リハビリテーション	可
18	中学校 高校	学生 保護者 教職員	Ride on the SDGs！ ～SDGsの波に乗ろう！～	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 講師　中島　裕也	SDGsでは、目標3[保健]人々の健康的な生活の確保と福祉の促進、目標8[経済成長と雇用]全ての人々の雇用を促進するといったことが掲げられています。病気や障がいをもった方、高齢者の方が活き活きと生活するためには、どんな取り組みが必要でしょうか？グループワーク形式で、様々な立場になって考えてみましょう。SDGsの波に乗って、みんなの未来をデザインしていきましょう！皆さんからのアイディアが世の中の役に立つ研究に繋がるかも！？	SDGs、地域生活	可

通年（2026年4月～2027年3月）

No.	施設区分	対象区分	講義テーマ	講師	内容・特色	キーワード	ZOOM
19	中学校 高校	学生	作業療法士が支える日常生活活動 （ADL）とは？	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 助教　熊谷　のぞみ	日常生活活動（ADL）とは、生活を送る上で基本となる身辺動作のことです。この様々な動作や活動に支障がある場合、作業療法士がサポートをして、その人らしい生活が取り戻せるように支援していくことになります。毎日の生活がどのような活動で成り立っているのか、一緒に考えてみましょう。またその活動に支障が生じたら、どのようにサポートしていくのか、作業療法士の視点からお話したいと思います。	日常生活活動、 動作指導	可
20	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	利き手交換チャレンジ！ ～どうしたら実生活で使える手になる？ ～	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 助教　佐々木　孝次	病気や怪我で利き手が使えなくなったらどうしますか？生活の中で普段なにげなく使っている鉛筆や箸を利き手とは反対の手ですぐに使うのは難しいでしょう。今の内から練習すれば両利きにだってなれます。すぐに始められる利き手交換のテクニックをご紹介します。また、慣れない間に使える生活道具（自助具）もあります。一緒に利き手交換にチャレンジしてみましょう。	利き手が使えなくなったら、 利き手交換、自助具	可
21	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	聞こえない・聞こえにくいってどんなこと？ ～知っているようで知らない聴覚障がい～	リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 講師　岡本　一宏	赤ちゃんから高齢者まで、軽度難聴から重度難聴まで、聴覚障がいによる影響や支援の方法について、医療、福祉、教育などの様々な視点からお話します。手話や指文字、読話などのコミュニケーション手段や補聴器の取り扱いなども体験できます。	聴覚障がい、 コミュニケーション支援	可
22	小学校 中学校 高校	教職員 保護者	褥瘡（とこずれ）およびスキンテア （皮膚が破れたり、裂けてしまうこと）の 予防から治療まで	看護学科 教授　北川　敦子	褥瘡(とこずれ)やスキンテア(皮膚が破れたり、裂けてしまうこと)は特に高率に発生する高齢者にとって重要な問題です。この問題を予防する方法、治療する方法について原理を交えながらわかりやすくお話する授業です。明日からのケアを学ぶ授業となります。対象に合わせた内容として分かりやすくお話します。	褥瘡、予防、寝たきり、 座りきり、スキン-テア、 皮膚裂傷、高齢者、 予防、管理	可
23	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	生きることってなあに	看護学科 教授　北川　敦子	様々な人々は辛くなったとき、「死」をはじめて意識するようになります。「死」と「生」は表裏一体のものであり、それは「いのち」という言葉で表現されています。本講義では人間の根本にある「いのち」と「生きる」について考え、明日から前向きな人生を送るためのヒントを考える授業です。対象に合わせた内容として分かりやすくお話します。	死生観、生と死、QOL、 スピリチュアルペイン	可
24	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	アドバンスド・スキンケア	看護学科 教授　北川　敦子	身体の外観を覆う最大の臓器、皮膚。この皮膚の整えが、身体的な影響だけではなく、心や社会生活に大きな影響をもたらします。おはなしでは、皮膚の解剖生理の基礎から、最新のスキンケア方法を実技を交えながら学びます（Zoomでの対応時は実技はできません）。スキンケアが、生活にどのような影響をもたらし、整えによって、何が変わるのか、について考えていきます。	褥瘡、予防、寝たきり、 座りきり、スキン-テア、 皮膚裂傷、高齢者、予防、 管理	可
25	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	折れない心を育てる	看護学科 教授　北川　敦子	苦しくて自分を認められず、自分や相手を傷つける。どうしたら、たとえ苦しくても人を傷つけず、自分や相手を大切にすることができるでしょうか。ただ単に、いのちの大切さを頭で理解するためのものではありません。私たち一人ひとりが、解決困難な苦しみを抱えたときに、具体的な行動として何ができるか、それぞれの立場で感じ、考える授業です。対象に合わせた内容として分かりやすくお話します。	死生観、生と死、QOL、 スピリチュアルペイン	可
26	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	からだをサビつかせるAGEの正体 ーAGEsの基礎知識と老化を予防する 食生活・スキンケア方法ー	看護学科 教授　北川　敦子	近年注目されているAGE（終末糖化産物）はからだをサビつかせ老化を促進する物質だということが明らかになってきました。本講義ではAGEの基礎知識からサビつきを予防する食生活・スキンケアのお話をします。さらに希望者には無料でAGEを測定する機器を用いて、自分の老化度を測定します。	AGE（終末糖化産物）、 老化、食生活、 スキンケア、AGE測定	可（Zoomの場合はAGEの測定不可）
27	中学校 高校	学生	プレコンセプションケアってなに？ ～思春期からの健康なからだづくり～	看護学科 教授　北川　敦子	「妊娠してからではなく、妊娠する前から健康なからだづくりを」と始まったのがプレコンセプションケアです。しかし、妊娠や性別にかかわらず「より健康に生きるために必要な知識と行動」という幅広い視点で捉えられるようになりました。今、そして将来の健康について一緒に考えていきましょう。	思春期、 妊娠前の健康管理	可
28	小学校 中学校 高校	①教職員 ②児童・生徒	チャレンジ算数・数学	看護学科 教授　趙　雪梅	探求活動や体験活動を通して、児童生徒の算数・数学への関心・意欲を高めることを目指します。活動はストーリーをもとに遊び的要素を取り入れます。活動に関わる操作・話し合いを通して、解決のための発想を生み出します。それらの発想に基づき、子どもが把握した知識・技能を活用して、数学学習とつなぎができるようになることを期待している。活動内容や時間に関して、教職員の方と事前に打ち合わせます。その後、担当教員とともに活動を展開します。	探求・体験、発想、活用	不可
29	小学校 中学校 高校	学生 保護者	キャリア講座		医療専門職は、医療に関係する専門的な仕事をする人のことを言います。医療専門職が携わるどの仕事も、人に寄り添い、人の人生に係る仕事で、人の命に係ることが多く、人を助けたい、救いたいという思いを持つ人が目指す「やりがい」のある仕事です。本講座では、医療専門職の中でもリハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）・看護師が「どういう職種なのか」、「それぞれの職種の魅力とは」について詳しくお話しします。本講座を受講することで、これからの進路を考える一助になるはずです。	リハビリ、看護、仕事	可

前期（2026年4月～9月）

No.	施設区分	対象区分	講義テーマ	講師	内容・特色	キーワード	ZOOM
30	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	食事のおいしさは何で決まる？ ～人がおいしく感じる仕組み～	リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 教授　保屋野　健悟	私たちは、食事をしているとおいしく感じたり、そうでなかったりするときがあります。これは、食べ物自体のおいしさだけから決まるのでしょうか？どうもそうではないということは、皆さんも気づいているところだと思います。この講座では、私たち人間が、「おいしい！」と感じる仕組みについてお話をします。	食べる、おいしさ、 食べる楽しみ、食育、 共食	可
31	未就学 小学校 中学校 高校	未就学児 学生 保護者 教職員	聞き手に伝わりやすい話し方	リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 講師　西尾　桂子	新型コロナ感染症でのマスク生活により、口唇や口唇周囲、舌などの口の動きや状態への意識が低下したとの報告があります。お口の動きが少ないと顔の表情のメリハリが少なくなるだけでなく、発音もあいまいになり、聞き手に話し言葉がうまく伝わらないことも生じます。正しい日本語の発音を理解し、お口を動かすことの大切さをお話します。	発音、 発声発語器官の動き	可
32	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	“伝わる話し方”で変わる人間関係と 自己肯定感	リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 講師　新谷　純	コミュニケーションが得意な人は、実はそれほど多くありません。 多くの人が、どこかに“話すことへの苦手意識”を抱えています。 でも、どんな人でも、相手とうまく話すことは可能です。大切なのは、“相手に良い印象を与える話し方”や“前向きな心構え”を持つこと。この講座では、私自身の研究をもとに、その具体的な方法をわかりやすくお伝えします。さらに、対人関係の苦手意識の背景には「自己肯定感」の問題があることも少なくありません。実はこの自己肯定感も、考え方や行動の習慣を変えることで、誰でも高めることができるのです。自己肯定感が高まれば、人との関係、勉強、学校生活、さらには遊びや日常のあらゆる場面が、きっともっと楽しく、前向きに変わります。一緒に、“伝わる話し方”と“自信の育て方”を学んでみませんか？	社会的スキル、 コミュニケーション、 音声表出	可
33	未就学 小学校 中学校 高校	未就学児 学生 保護者 教職員	遊びとコミュニケーションの素敵な関係 ～ことばの発達を中心に～	リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 助教　村田　里佳	子どもたちの周りにあるもの、やることは全て「遊び」です。興味を持っておもちゃや活動に向かい、色んなことを学んでいきます。遊びが子どもたちのコミュニケーション能力の発達とどのように関係しているのか、背景にある言語や認知の発達を踏まえてお話しします。	言語発達、遊びの発達、 コミュニケーション支援	可
34	中学校 高校	学生 保護者 教職員	認知高齢者が生きる世界を理解する ；認知症を患う高齢者の立ち場になってみよう	看護学科 教授　寺島　喜代子	平均寿命が延伸し核家族化が進む状況で、認知症高齢者が住み慣れた地域で生き続けるためには、若年層から認知症の正しい知識を学び高齢者やその家族に支援の手を差し伸べることは必須である。そのため認知症高齢者が日常生活を送るうえで、どのような不都合を体験しているのかを学んでいきたいと思います。	認知症高齢者、 高校生の認知症高齢者イメージ、認知症の症状	可
35	小学校 中学校 高校	学生・保護者・教職員	杉田玄白になって体の「かたちとはたらき」 について考えよう～筋・骨格編～	看護学科 教授　猪口　徳一	福井が誇る江戸時代の蘭学者、杉田玄白は解体新書をまとめ、日本の医学の発展に貢献しました。参加者が杉田玄白となって普段触れることのない体の内部について模型を使って調べます。そして、体の「かたちとはたらき」について一緒に考えてみましょう。今回は筋・骨格編です。	体のかたちと機能、頭と脳 体のかたちと機能、 筋肉と骨格	不可
36	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	熱中症（脱水）を予防しよう ～1年間通して起こりうる熱中症の予防と対策～	看護学科 講師　蔵屋敷　美紀	日常生活（スポーツ場面含む）に潜む熱中症は、夏だけではなく1年中起こります。熱中症になる理由、熱中症予防のためのポイントから早期発見の方法、年齢による違いなどについて、年齢に応じて説明します。	熱中症、脱水、こども、 高齢者	可

後期（2026年10月～2027年3月）

No.	施設区分	対象区分	講義テーマ	講師	内容・特色	キーワード	ZOOM
37	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	声を分析して体調を評価する	リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 教授　塩見　格一	最新の研究成果から「人間の音声を分析すれば、発話者の心身状態の評価が可能である！」と考えられる成果が得られています。この成果から、スマートフォンのアプリを利用して、誰でも簡単に日常的な自己管理が可能になっています。この技術について、その手法から現状までの成果と将来的な展望についてお話します。	音声、心身状態、 過労状態、睡眠不足、 居眠りの予知と警告	可
38	小学生 中学校 高校	学生 保護者 教職員	ことばと脳の仕組み	リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 講師　高橋　宣弘	ことばは思いを伝えたり、物語を紡いだり、世界を理解する手助けをしてくれます。しかし、その背後には脳の驚くべき仕組みが存在しています。この講座では、ことばと脳の密接な関係について探求します。さらに、脳卒中（脳の血管がつまったり破れたりすること）により起こる障がいの中に失語症というものがあります。失語症になると、なぜ言葉がうまく使えなくなるのかについても理解を深めていきましょう。	ことば、脳、言語処理、 言語障がい	可
39	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	身近な感染予防;できていますか？ 正しい手指衛生 ～感染防止の基本は手洗いから～	看護学科 教授　吉江　由加里	感染症は、ひとたび発生して拡大すれば個人の健康のみならず社会全体に深刻な影響を及ぼすおそれがあります。身近な感染症や、予防対策としての 手洗いの効果、マスクの効果等についてお話しします。	感染症、予防対策、 手指衛生、手洗い	可
40	高校	学生	ストレスって何?	看護学科 教授　供田　文宏	ストレスとは何なのか、ストレスはどのように体に影響するのか、ストレスの良い面と悪い面についてお話します。また、ストレスの対処法や最近の新しい治療の動向についてもわかりやすく解説します。	ストレス、自律神経、ストレスホルモン、除神経	可
41	高校	学生	腎臓病って何?	看護学科 教授　供田　文宏	体で腎臓は何をしているのか、腎臓が病気になると体はどうなるのか。また、腎臓病の予防法や最近の新しい治療の動向についてもわかりやすく解説します。	腎臓の働き、 腎臓病で起こる体の問題、 腎臓病の予防対策や最近	可
42	未就学	保育士 教職員	子どもに起こりやすい事故の予防と手当	看護学科 教授　吉田　美幸	子どもの死亡原因では、「不慮の事故」が上位を占めており、子どもは一生の中で最も事故を起こしやすい年齢層です。子どもの健康を護るためには、事故を予防することが重要です。そこで、子どもの発達的特徴、それにともない起こりやすい事故とその予防・手当についてお話しします。	子ども、事故、事故予防、 手当	可
43	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	杉田玄白になって体の「かたちとはたらき」 について考えよう～あたま・脳編～	看護学科 教授　猪口　徳一	福井が誇る江戸時代の蘭学者、杉田玄白は解体新書をまとめ、日本の医学の発展に貢献しました。参加者が杉田玄白となって普段触れることのない体の内部について模型を使って調べます。そして、体の「かたちとはたらき」について一緒に考えてみましょう。今回はあたま・脳編です。	体のかたちと機能、頭と脳 体のかたちと機能、 筋肉と骨格	不可
44	中学校 高校	学生 保護者 教職員	高齢者はなぜ転倒しやすいのでしょう 一転ばぬ先の知恵一	看護学科 准教授　油野　規代	高齢者の身体的特徴を理解した上で、転倒しやすい環境、転倒のリスクと転倒が及ぼす影響をお話しします。またとっさの時に一歩が出る体力づくりを演習を通してやってみましょう。	転倒予防、環境、 体力づくり	原則不可
45	中学校 高校	保護者 教職員	介護の苦労を分かち合おう	看護学科 准教授　油野　規代	少子高齢社会において、自分や家族が介護が必要になったとき、どうすればいいのか不安は多いと思います。入院から退院、そして自宅で生活するために、家族だけで介護を背負い込む必要はありません。どのように社会資源を活用していけば良いのか、一連の流れを事例を通し話します。	介護、社会支援の活用	可
46	小学校 中学校 高校	学生 保護者 教職員	学校生活が楽しくなる睡眠の話	看護学科 講師　藤本　ひとみ	自分の睡眠を見直してみると、学校生活が今より少し楽しくなるかもしれません。小学生（中学生、高校生など）に必要な睡眠時間、寝ている間に起こる体の変化、寝る前にしてはいけないこと、「ぐっすり眠る」、「すっきり起きる」方法などについてお話します。	睡眠、心身健康、学校生活	可
47	未就学 小学校 中学校	教職員	見逃さないで！こども虐待	看護学科 講師　青井　利哉	子どもの虐待予防、発見、対応、再発防止のために何ができるのか、私が経験してきた多くの例をもとに、具体的に解説します。さらに、児童虐待が子どもの発達にどのような影響を与えるのかについても考えます。	こども、虐待	可
48	中学生 高校生	学生	ユーモアとケア	看護学科 助教　近藤　やよい	ユーモアは、一般的に対人関係のコミュニケーションスキルとして知られています。ユーモアのある人ってどういう人でしょうか？おもしろいことを言う人、笑わせてくれる人というイメージが強いのではないでしょうか。ユーモアも多種類ありますが、ここでは、笑いやユーモアが医療の現場でどのように活用されているのかをお話します。（笑いを伴う体操も説明します）	ユーモア、 コミュニケーションスキル、 医療現場での活用	可
49	小学校 中学校	学生 保護者 教職員	生活行動からからからだをみて自分の 生活習慣を振り返ってみよう	看護学科 助教　奥田　豊子	生きていることとはどういうことか、食べて、息をして、トイレに行くことは生きていることとどのように関連しているのか。これらをを知ることで、自分の日々の生活振り返り、より良い生活習慣を整えることに繋がります。対象年齢に合わせてお話しします。	生活行動からみるからだ、 生活習慣、 健康管理、	可